

溪声

かんきょう高原いんぷお
神岡・上宝共通版
H23.5.18発行
発行/株式会社 神岡衛生社



がんばろう 日本

被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

3月19日から3月28日までの間、国からの要請で岐阜県環境整備事業協同組合の一員としてバキュームカー11台、人員26名で岩手県大槌町、釜石市、大船渡市へ行き、おもに一般家庭のし尿汲み取り等を行ってきました。現地の業者さんは、会社も車もすべて津波で流されてしまっていました。

実際に被災地に行ってみると、テレビ等の報道で見るよりも凄い災害の状況に驚かされ、言葉も出ませんでした。地震と津波の恐ろしさを痛感させられました。

被災された方たちは、電気も水道もなく支援物資に頼っての生活で、その光景を目にして心が痛みました。被災された方と話した中で、「今一番なにがほしいですか?」と質問したら、「お風呂に入りたい」と言う答えが返ってきて、いかに普通の生活が幸せか考えさせられました。少しでも、被災された方々の力になれるよう日々努力していきたいです。

業務課 瀧本 隆一



東日本
大震災
支援活動
に参加して



高原川の水質

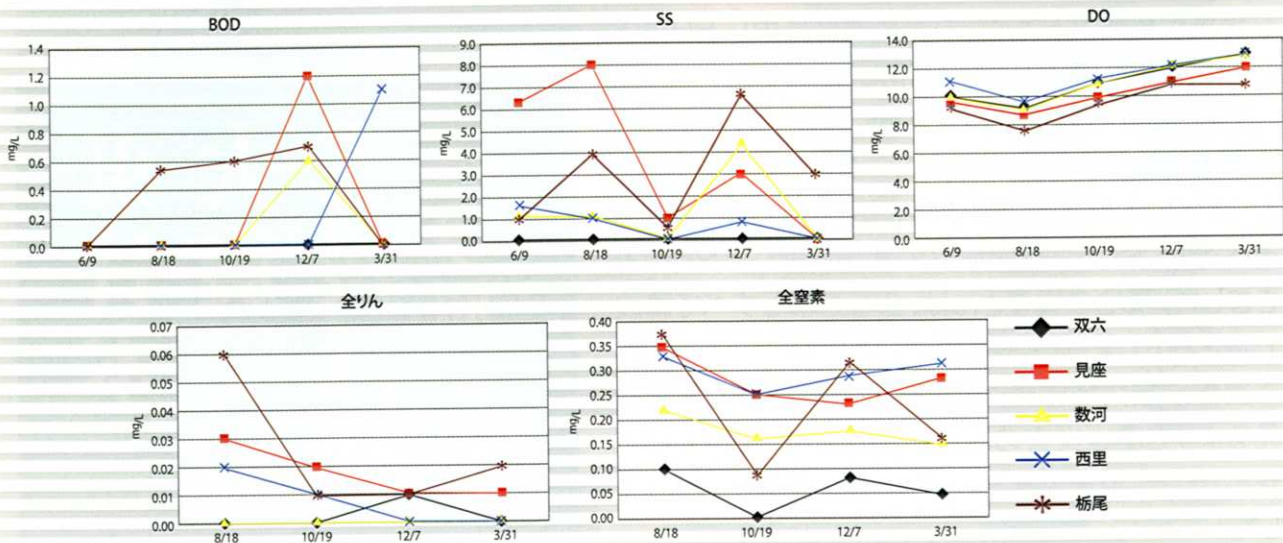
平成22年4月から1年間、2ヶ月に1回、高原川の水質を下記の5箇所で測定しました。

- 栃尾橋下流(新平湯浄化センター横)
- 双六橋下流(双六キャンプ場裏)
- 見座洞谷用水
- 数河(川甚亭裏)
- 西里橋下流(船津座裏)

いずれの地点でも、総じて水質は良く、季節変動もそれほど大きくはありません。(SSは天候に左右されるため、変動が大きくなっています)

BODは、ほぼ1mg/l以下となっており、環境基準のAA(一番きれいな基準)をおおむね満たしています。

高原郷の大切な財産である高原川の環境を守るため、汚い排水を流さないように気をつけていきましょう。



このコーナーでは、当社の社員が、環境衛生の仕事の現場で見たこと、感じたこと、あるいは仕事に関係のない趣味の世界を、交代で思いつくままに書き綴っていきます。

「鮎釣り」

春は溪流、夏は鮎釣りとい前は朝早くから昼頃まで毎週末のように釣りに出かけていました。ここ近年は刺し網に夢中でしたが、今年の夏は久しぶりに鮎釣りをしたいと思います。

いつも思うことですが、川原へ行くと、必ずビールやジュースの空き缶、お菓子や弁当のカラなどが無造作に捨てられています。

綺麗な川を守るために、マナーを守りゴミは持ち帰るようにしたいものです。

植村 和彦(うえむら かずひこ) 平成16年入社 業務部長

しあわせになる条件 その19

木の葉のように舞うおびたしい数の車。バリバリと壊され押し流されて行く家々……
つい先ほどまで、人々が働き、語り、笑い、長い歴史を刻んできた街や村は一瞬のうちに視界から消え去ったのです。

「まだ夢を見ているようです。3月11日で時は止まったままです。」東日本大震災の爪あとはあまりにも酷く、そこに住む人々の心を深く傷つけてしまいました。

「しあわせとは？」今回の災害は、私たち人間に、その問いを鋭くつきつけているのかもしれない……今、多くの日本人が、そのことに気づきはじめているのではないのでしょうか。

かつては貧しい農業国だった我が国が、戦後、GDPを上げることがしあわせへの唯一の道であると信じ、働きバチと言われようとも、企業戦士であることを誇りに思い、必死に働き続け、現在こんなにもクリーンで豊かな国を造り上げました。

しかし私たちは、願っていたしあわせを果たして手にすることができたでしょうか。高級車を乗り回し、立派な家に住み、ハイテクな家電製品に囲まれ、世界中のグルメを口にしても、しあわせは、どんどん遠くなって行くばかりでした。物質的に豊かになればなるほど心は貧しくなり、家庭からも社会からも、言葉が消え、愛が消えて行くのでした。多くの人々が、無縁社会という乾いた波間にポツンと浮かぶ小舟のような、よるべのない孤独感にさいなまれているというのが現状ではないのでしょうか。



尾山敦子
キャリアカウンセラー

人が生きて行くには4つの居場所が必要であると言われていました。まず第一に自分のルーツであるふるさと、第二にそこに住む人たちとのあたたかな交流、第三に母船である安定した家庭、そして

やりがいのある仕事、以上4つです。

いつのまにか私たちは、ふるさとを忘れ、地域のコミュニティを切り捨て、家庭をおろそかにして仕事だけに軸足を置いてこなかったのでしょうか。

「家族で食事をし、テレビを見て、ゆっくりお風呂に入り、手足を伸ばして寝る、そんな当たり前の生活がしたいのです」ある若い母親はそう訴えていました。「うさぎ追いしかの山、小ぶな釣りしかの川……」避難所には慰問に訪れたコーラス隊の透きとおった唄声が響いていました。

今、あなたの手の中に何がありますか？しあわせは決して遠くにあるものではありません。もうすでにあなたに届けられているのです。今自分の手の中にあるものを大切にしてください。しあわせは、その中にそっと隠れているはずですから。

こんにちは! 環境分析室です! No.12



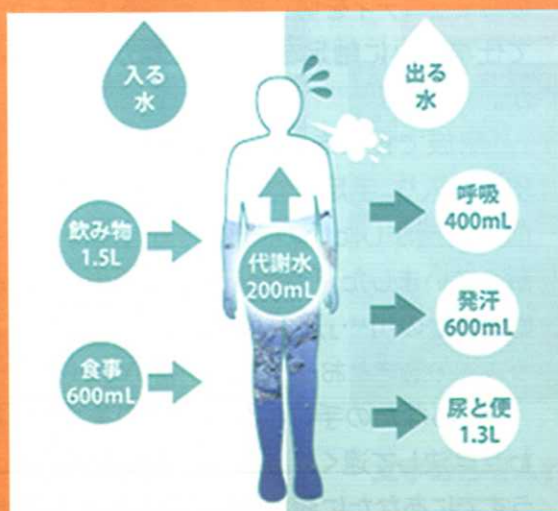
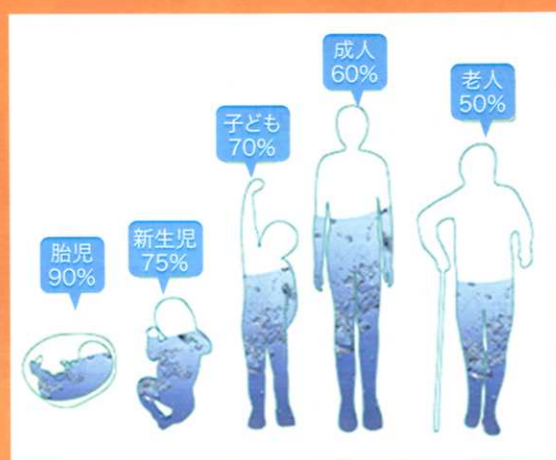
今回は
「私たちの体の中の水」
についてお話しします。



私たちの体は、ほとんどが水でできています。成人男性では体重の約60%、成人女性では約55%、生まれたての赤ちゃんはなんと70%以上が水分なのです。

人間は食事をしたり飲み物を飲んだりすることで体内に新しく水を取り入れ、尿・汗・吐く息などによって古い水を体の外に出しています。

体内の水は命を保つために必要なもので、人間は水がなければ数日しか生きられません。食べ物を全く食べなくても、水と十分な睡眠があれば2~3週間生きられると言われているので、生きていく上でどれほど水が重要なのがよく分かります。



その大切な水が足りなくなると、「脱水症状」になり、体の中で次のようなことが起こります。

- ①汗が出なくなり、体温が調節できない。
- ②尿が出なくなり、老廃物(捨てなければならないもの)がたまる。
- ③血液がドロドロになり、内臓・筋肉・神経などの動きが悪くなる。

普通に生活しているだけでも、1日に2L以上の水分を失うので、これからの汗をかく季節にはこまめな水分補給を意識しましょう

これから

川村 和夫先生
名古屋市在住
弁護士 33 年目の 56 歳
趣味雑多

原子力損害賠償法という法律があり、電力事業者の負う、無過失・無制限の責任に関し、3条但書には、「その損害が異常に巨大な天災地変又は社会的動乱によって生じたものであるときは、この限りでない。」との規定がある。その但書に該当する場合には、17条に、「政府は、…被災者の救助及び被害の拡大の防止のため必要な処置を講ずるようにするものとする。」との規定がある。

今回の地震・津波は、「異常に巨大な天災地変」であると考え余地は十分にある。そうであれば、損害に対処する責任は、政府に一次的にある。しかし、これらの規定については、報じられていないようである。首相は、政府の責任は、二次的な責任であると言っている。

地震・津波は、自然現象であるが、原子力発電所で起きたことは、人間が創り出した問題である。原子力発電所では、自然界で自然には起きない現象を起こして、その強烈なエネルギーを使っている。その点において、核兵器も同じである。コントロールしているつもりでも、コントロールしきれないことが起きるかもしれないという点でも、同じかもしれない。

いずれにせよ、このエネルギーの存在を無視して、私たちは生きていくことはできない。自分だけが山の中にこもって電気のない生活をすることはできても、日本から原子力発電所が無くなるわけではない。それは、現実として直視するしかない。

自分で創り出したものによって災厄を蒙るとい^{こうむ}う展開は、古来枚挙に暇が無い。即

時・大量通信を誰にも可能にしたコンピューターにも、そういう面がある。

原子力発電所も核兵器も大変怖い。しかし、怖いから棚上げするということができないところまでできている。私達が、賢くそれに対していくことができるか、できなければ、全滅ということもあるのかもしれない。



福島第一原子力発電所

高原川漁協からのお願いです



けいはんりん

溪畔林を大切にしましょう

溪流のそばにある林「溪畔林(けいはんりん)」は、イワナやヤマメなどの餌になる陸生昆虫の供給、水生昆虫の餌になる落葉の供給、水温の調節など、さまざまな役割を持っています。

溪流の生物が末永く暮らせるよう、溪畔林を大切にしましょう。



川の汚れの原因の7割は家庭からの排水が原因だといわれています

- ①節水に心がけましょう。
風呂の残り湯を洗濯に使う。洗車をやめる、ヨーロッパではほとんど洗車はしていません。
- ②台所では、三角コーナーや排水口にろ紙を使う。
- ③天ぷら油やよごれた食器は紙で拭き取ってから洗う。
- ④米のとぎ汁は、樹木や畑にまく。
- ⑤洗剤及び石鹸の使用量は適量とする。
- ⑥化粧品の使用を最小限にする。
日本だけでも年間36万トンもの化粧品が使われ、洗顔時に流れ出ています。



墓石のクリーニングは いかがですか?



Before

鳥居・石碑などもきれいになります。




After



文字の色を入れる事ができます。



墓地の周辺の雑草を除去し、墓石に付いた水垢、コケ汚れをきれいに洗淨します。
清掃前・清掃後に写真を撮影し、報告書をお客様にお届けします。

まずはお電話を。見積もりは無料です。担当:石田  0120-489-337

災害の世紀が 始まったのか(1)



粕谷 志郎 (かすやしろう)

岐阜大学地域科学部教授 医学博士

このたびの東日本大震災で被災された方々、関係の方々に心よりお見舞い申し上げます。

神岡衛生社ではいち早く、汲取車を現地に派遣し、支援活動に当たったと聞き、心強く感じました。私も、3月21、22日の二日間ですが、塩釜にある病院の支援に行ってきました。現地スタッフは疲れの極限かと思ひ、出かけたのですが、連日100名前後の応援が全国から

集まっており、統制のとれた医療活動が進められていました。

今回の犠牲者の9割以上が津波によるものでした。西暦869年に貞観(じょうかん)津波がこの地方を襲っていますが、状況がよく似ています。この時の地震の規模はM8.3以上、津波の高さも9m以上と推定されています。「野原も道路もすべて海となり、船に乗るいとまあらず、山に登るもおよびがたくして溺死者千ばかり。資産も苗稼もほとんど残るもの無かりき。」と「日本三代実録」に記されています。これらの実証調査が進められたのは最近で、堆積物の調査などから、近い将来、この程度の規模の地震、津波が押し寄せると警鐘が鳴らされ始めた矢先の出来事でした。

福島第一原発事故にも、この教訓は生かされませんでした。総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会耐震・構造設計小委員会地震・津波、地質・地盤合同ワーキンググループが、2007年から始まり、地震の想定の見直しがありました。岡村委員は、貞観地震を挙げ、対策の甘さを批判し、食ひ下がりましたが、東電側は1930年の塩屋崎沖地震(M7.9)で十分と逃げ切りました。どんな反対意見があっても、決めたらやってしまう。やってしまったことは、決して反省しない。こうした役人、大企業の論理こそ「残るもの無かりき」として欲しいものです。

貞観時代は、さらなる惨事を私たちに警告しています。



粗大ゴミ 分別しにくいゴミ を運搬いたします!

大きなものから小さなものまで
収集いたします。

当社におまかせを!

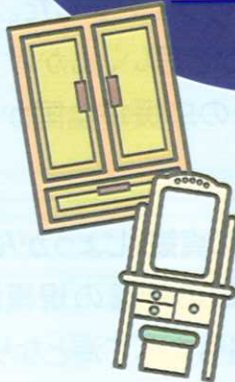
畑の小屋の中から、家の中から、分別し、
運搬処分いたします。量が多くても大丈夫!



作業前



作業後



作業前

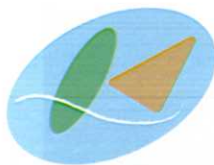


作業後



※1つ、2つの不要なものは、「ふれあい収集」が便利でお得です。

一度ご相談ください!  **0120-489-337**



株式会社 神岡衛生社

〒506-1147 飛騨市神岡町東雲375番地

TEL0578-82-0337 FAX0578-82-5846 URL <http://www.k-eisei.co.jp/>

ホームページからお問い合わせ、ご注文など
承っております。なかなか電話する時間がない
方も、そうでない方もお気軽にどうぞ。

業務 内容

- 一般廃棄物収集運搬/し尿、ゴミ(一般家庭・事業系)
- 産業廃棄物収集・運搬
- 浄化槽清掃
- 浄化槽保守点検
- 浄化槽工事
- 上下水道設備工事
- 下水道施設維持管理(終末処理場・管路)
- 衛生設備維持管理
- ビルメンテナンス/床清掃、排水管清掃、貯水槽清掃
- リースキン代理店
- 水質分析/環境分析、排水分析、建築物飲料水水質検査
- 環境衛生関連商品販売
- その他、環境衛生に関する全般のご相談に応じます。